

# 平成29年度全国学力・学習状況調査の結果について（公表）

塩尻市教育委員会

## 1 趣 旨

本年4月18日に実施した「平成29年度全国学力・学習状況調査」について、国及び県の調査結果の公表があり、これに基づき、本市の結果を分析しましたので、その概要をお知らせするものです。

## 2 調査の概要

### (1) 調査の目的（文部科学省）

全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### (2) 調査の対象学年と実施した学校数・児童生徒（小中学生）の人数

対象学年	対象学校数	学校数（実施率）	実施人数
小学校第6学年	9	9（100%）	574人
中学校第3学年 （両小野中学校を含む）	6	6（100%）	567人

### (3) 調査の事項及び手法

#### ア 児童生徒に対する調査

##### ① 教科に関する調査（国語、算数・数学）

国語、算数・数学はそれぞれ「主として『知識』に関する問題」（A）と「主として『活用』に関する問題」（B）を出題。

##### ② 質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査を実施。

#### イ 学校に関する質問紙調査

学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査を実施。

## 3 調査結果

### (1) 教科に関する調査結果の全体概要

ア 小学校第6学年は、国語A・B、算数A・Bそれぞれにおいて、全国及び県平均正答率を上回る結果でした。特に算数A・Bについては大きく上回りました。

イ 中学校第3学年は、国語A・B、数学A・Bそれぞれにおいて、全国及び県平均正答率を上回る結果でした。

ウ 国語、算数・数学については、全国の傾向と同様に、「主として知識に関する問題」（A）は、「主として活用に関する問題」（B）より、平均正答率は高い結果となっています。

## (2) 各教科の調査結果と今後の対応

### ア 小学校（国語）

「国語A」の調査結果を見ると、基礎的・基本的な知識・技能は概ね身に付いていると言えます。特に、「漢字の読み・書き」については、定着が進んでいるものと考えられます。しかし、「手紙の構成の理解」については、正答率が全国より低い状況となっており、「適切なものを選択して書くこと」が課題として残りました。

「国語B」の調査結果を見ると、「目的に応じて話す」「目的や意図に応じて文章の構成を考える」等において比較的高い活用力を身に付けています。今後は、「話すこと・読むこと・書くこと」等を関連させた豊かな言語活動を通して、活用力を一層高めていくことが望まれます。

### イ 小学校（算数）

「算数A」の調査結果を見ると、「数と計算」「図形」の知識・技能などについて、概ねよい定着を示しており、基礎的・基本的な内容を着実に身に付けてきていると言えます。

「算数B」の調査結果を見ると、「数学的な見方・考え方」については、いずれの領域においてもバランスよく力を付けてきていると言えます。しかし、「図形」の問題には課題が見られました。今後は、与えられた情報をもとに、数や量の関係を捉えたり関連付けて考えたりする学習を増やすことが望まれます。

### ウ 中学校（国語）

「国語A」の調査結果を見ると、各領域の基礎的・基本的な内容は概ね身に付いていると言えます。特に、「分かりやすく書く」「材料を集め自分の考えをまとめる」など「書く能力」が定着しています。

「国語B」を見ると、「文章の内容を理解すること」「資料を活用して話すこと」などの活用力は概ね良好な状況ですが、「条件に応じて自分の考えをまとめること」に課題が見られました。今後は、相手の意見や考えに応じて、自分の考えが伝わるように話したり書いたりすることなど総合的な力を高めていくことが望まれます。

### エ 中学校（数学）

「数学A」の調査結果を見ると、「数と式」「図形」の基礎的・基本的な内容について概ね理解できていると言えます。しかし、「範囲の意味理解」「比例定数の意味理解」等「関数」については、課題が残りました。今後は、各領域の基礎的知識・理解を確実なものにしていくことが望まれます。

「数学B」を見ると、同じ領域でも問題によって正答率が大きく異なりましたが、全般的に、資料から情報を読み取り、問題解決していくなど、「数学的な見方や考え方」について力が伸びていることがうかがえます。しかし、「関数」の解釈や与えられた条件で説明・記述することに課題が見られました。今後は、関数についての理解を一層深めるとともに、数理について理由を説明したり記述したりする活動に粘り強く取り組むことが望まれます。

(3) 生活習慣等に関する児童生徒質問紙調査結果の実態

ア 塩尻市の市民運動「早ね 早おき 朝ごはん・どくしょ」の観点から

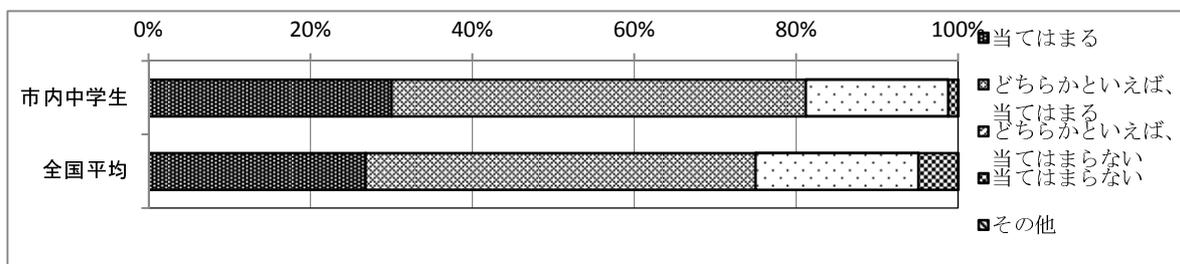
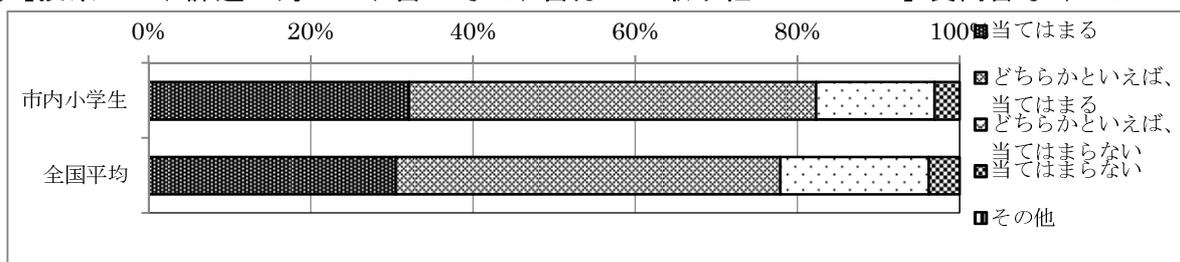
- ・質問番号(2) 毎日、同じくらいの時刻に寝ているか
- ・質問番号(3) 毎日、同じくらいの時刻に起きているか
- ・質問番号(1) 朝食を毎日食べているか
- ・質問番号(18) 平日の読書時間

上の4つの調査結果をみると、「早ね」については8割以上、「早おき」については、9割以上の児童生徒がだいたい決まった時間に寝起きしており、規則正しい生活習慣ができています。「朝ごはん」についても、「している」「どちらかといえば、している」は小学生97%、中学生96%であり、良好な状況です。

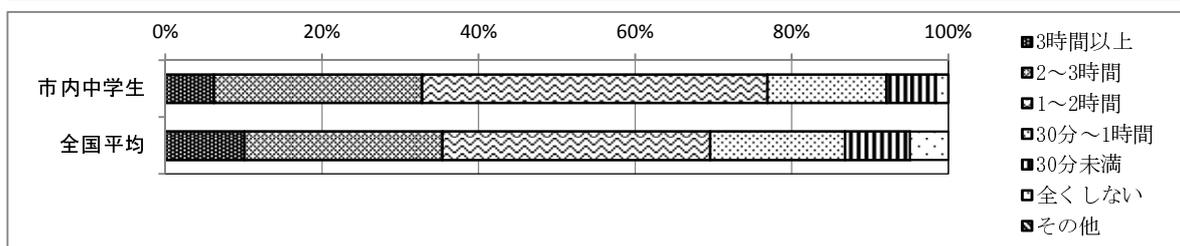
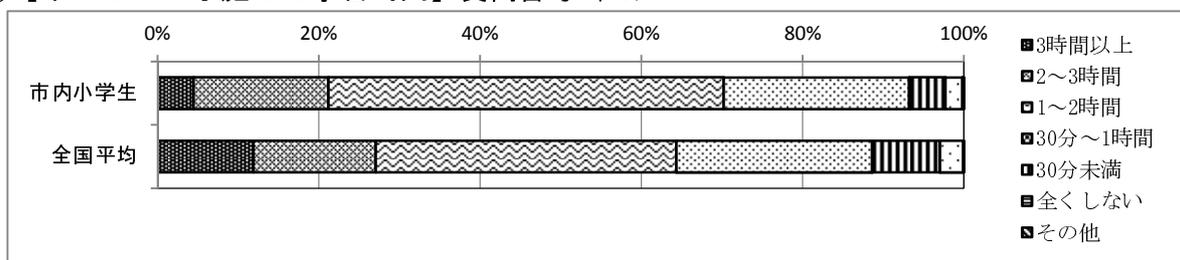
平日の家庭での読書時間は、「10分以上」で見ると、小学生69.9%(全国63.4%)、中学生65.1%(全国51.67%)であり、全国に比べ、6~14%ほど高くなっています。また、質問番号(72)「読書が好きですか」について、「読書が好き」と答えた子の割合は、小学校53.3%(全国49.0%)、中学校55.4%(全国46.1%)でした。各学校での一斉読書や市立図書館や地域と連携した読書の取り組みが、成果として表れているものと考えられます。

イ 学習に関する観点から

①【授業では、課題に対して、自ら考え、自分から取り組んでいたか】質問番号(55・57)



②【平日1日の家庭での学習時間】質問番号(15)



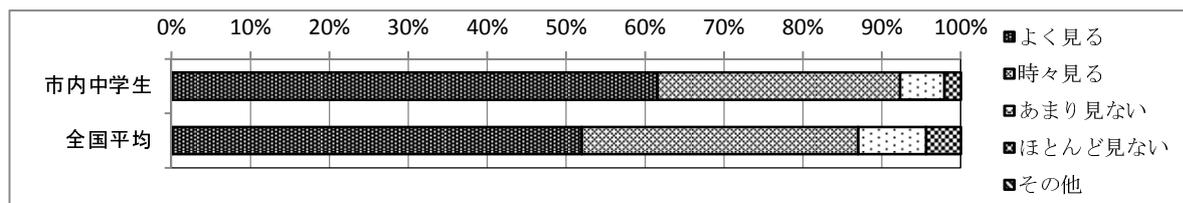
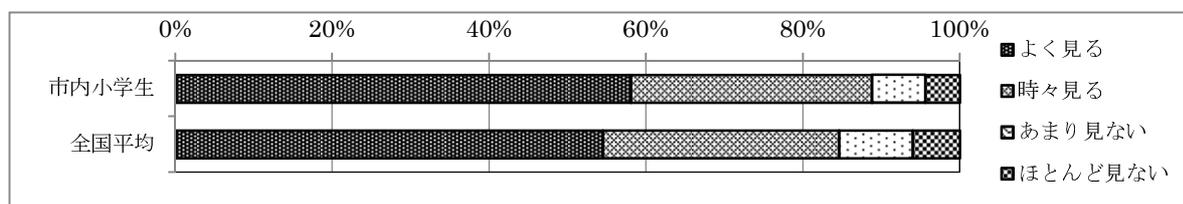
授業の課題に対しての取組については、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」が、小学生82.3%（全国77.9%）、中学生81.1%（全国74.9%）であり、全国に比べて高い結果でした。教師から示される課題や、学級やグループの中で、自分たちで立てた課題に対して、自分から考えて取り組む主体的な姿勢で授業に臨んでいたことがうかがえます。

平日の家庭学習の時間は、小中ともに1時間から2時間が最も多く、家庭学習1時間以上の児童生徒は、小学生70.2%（全国64.4%）、中学生76.9%（全国69.6%）でした。全く家庭学習をしない児童生徒の割合は小学校2.1%、中学校1.6%でともに全国より少ない状況です。

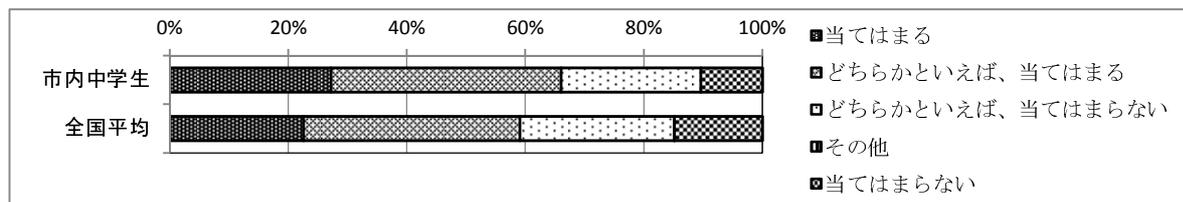
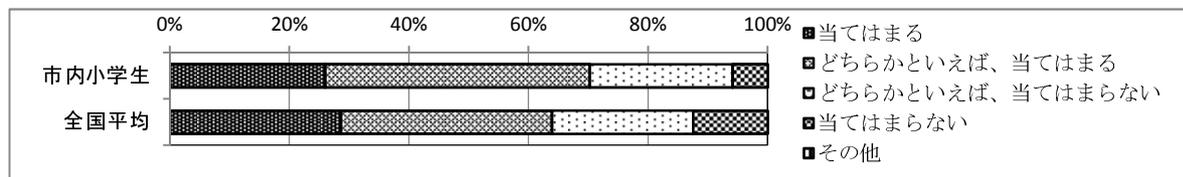
## ウ その他の観点から

### ① 地域や社会との関わり

#### 【テレビやインターネットのニュースを見るか】質問番号（46・48）



#### 【地域や社会で起こっているできごとに関心があるか】質問番号（41・43）



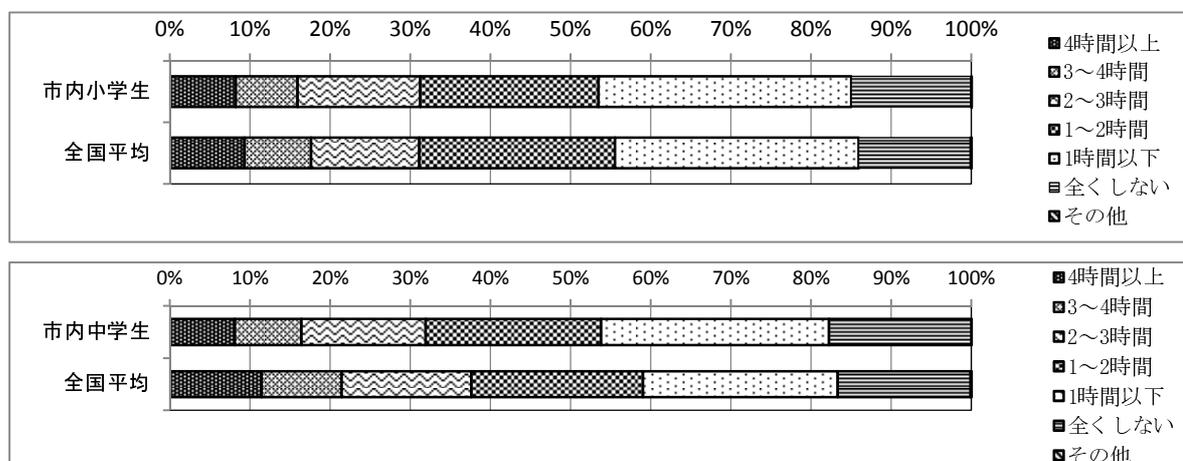
インターネット・テレビのニュース番組を見る児童生徒の割合は、全国より高い数値を示しており、地域や社会で起こっているできごとへの関心については、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」が、小学生70.3%、中学生66.0%であり、全国に比べ、小中学生ともに6ポイントほど高くなっています。

地域や社会で起こっているできごとへの関心が高いほど、学力も高い傾向が見られますので、新聞やインターネット・テレビのニュース番組を見る時間を今後も増やしていくことが望まれます。

## ② ゲームやインターネットの使用時間

【テレビゲーム（コンピュータ・携帯式ゲーム、スマホ等のゲームも含む）の平日1日の使用時間の割合】

質問番号（14）



ゲームを1時間以上している市内小学生は53.5%（昨年度52.8%）、市内中学生は53.8%（57.3%）でした。平日1日あたりのテレビゲームの時間は個人差が大きく、ゲームに費やす時間が長いほど、教科の正答率が低い傾向が見られますので、保護者の協力を得て、1日の生活時間の有効活用を呼びかけ、「ゲームのスイッチを切る」「スマートフォンやPC使用の約束・制限」等の具体的な取り組みを一層進めていく必要があります。

## 4 これまでの取組の成果 学校質問紙調査結果から

### (1) 教科指導

ア 授業のはじめに「目標（めあて・ねらい）」を示し、授業の終末には「振り返りの時間」を設けるなど、児童生徒が課題をもって取り組む授業の実践が進んでいます。また下の表のように子どもたちも課題を意識し、主体的な姿勢で授業に臨んでおり、教師と児童生徒が同じ方向を目指す授業が増えていると考えられます。

項目	小学校	中学校
〈学校質問番号（41）〉 授業で、児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し、解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの活動を取り入れたか。	90%	80%
	全国平均 82%	全国平均 75%
〈児童・生徒 質問番号（55）〉 先生から示される課題や、学級やグループの中で、自分たちが立てた課題に対して、自ら考え、自分から取り組んでいたか	81%	81%
	全国平均 78%	全国平均 75%

※数値（%）は、「よく行った」「どちらかというによく行った」の合計

イ 学校では、インターネットを使って調べ方が身に着くように指導しており、コンピュータや、電子黒板、プロジェクターなどの機器を活用した授業を実施することで、児童生徒が興味を持って学習に取り組み、内容の理解も向上しています。

項 目		年度	小学校	中学校
〈学校質問番号（41）〉 本やインターネットなどを使った資料の調べ方が身に付くように指導したか	行った	本年度	44%	0%
		昨年度	11%	20%
	どちらかといえば行った	本年度	44%	80%
		昨年度	67%	20%

ウ どの学校でも、教育課程の編成を行い、実施、評価して改善するなどのPDCAサイクルが確立しつつあります。そして、自校の全国学力・学習状況調査や他の学力調査の結果を分析し、学校全体で成果や課題を共有し、改善の具体策を考え実行しております。また、地域の資源や、地域の人材を授業で活用しながらよりよい授業ができるように改善を図っております。

項 目			小学校	中学校
〈学校質問番号（30）〉 調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか	よくしている・どちらかといえばしている		89%	100%
〈学校質問番号（31）〉 指導計画作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的にくみあわせているか	よくしている・どちらかといえばしている		89%	100%

## (2) 児童生徒への支援

ア 学校では、特別支援教育についての研修や元気っ子応援事業を通して、一人ひとりの子の理解を深め、児童生徒の特性に応じた指導・支援を工夫しております。そして、学校全体で教室環境の整備、板書や説明の仕方、教材の工夫など、ユニバーサルデザイン化を目指した授業改善に取り組んでいます。

イ Q-Uアンケートを全小中学校で実施し、その結果を活用しながら、きめ細かに生徒指導を行い、児童生徒が安心して学ぶことのできる学級づくりを推進しています。

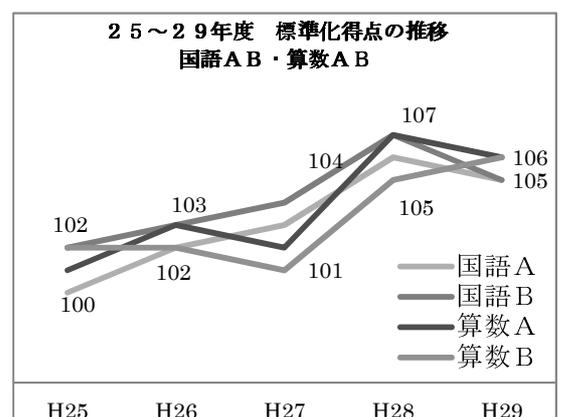
## 5 S小学校の学力向上に向けた取組みより

S小学校の全国学力・学習状況調査の教科得点は、右のグラフのように年々向上しています。どのような取り組みで成果が表れてきたのでしょうか。

### (1) 重点をはっきりさせた日常の授業実践

S小学校では「友とともに学び、自ら考えて行動できる子の育成」を重点とし、次の3点を大切に考え毎日の授業を行っています。

☆標準化得点 全国平均を100とした時の数値



〈席を立ってお互いに教え合う〉

#### ア よくわかる授業

〈授業のねらいをはっきりさせ授業の終わりには振り返り振り返りをする〉授業アンケートで、子どもたちが「分かりやすい」という評価が80%以上を目指す。

#### イ 子どもが自ら学び方を学ぶ学習展開

〈自分の考えを発表したり、書いたり、話したりできる〉

#### ウ 支え合いによる学習〈みんなで考える、教え合う〉



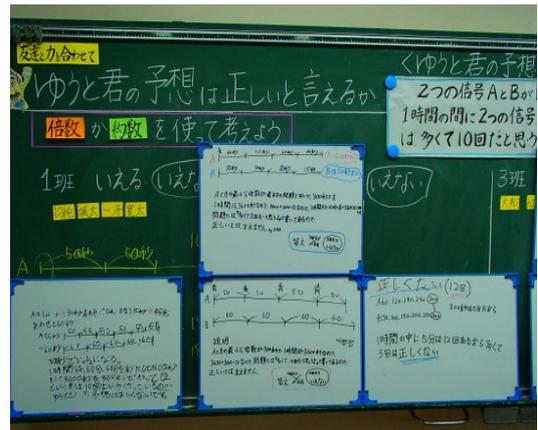
### (2) 教師全員が公開授業を行い互いに学び合う

昨年度は年間11回の公開授業を行いました。「こんな授業にしたい」という自己課題をもとに授業を構想し公開します。そして、指導者や同僚より意見を聞きます。お互いに授業を参観し自分の視点から学び合うことで、向学の気風がある教師集団ができ、各自の授業力も向上しています。

### (3) 授業が好きになる工夫

学力調査の終了後、子どもたちは「ああ楽しかった」と口ぐちに語っていました。担任は「子どもが授業を好きになる工夫をしています」と話してくれました。算数では、今まで学習した方法を使ってどのように問題を解くかを考えさせたり、友だちに教えたり教えられたりして問題を解くよさを体験させたりしています。国語では、授業の課題を絞って話したり、聞いたり、書いたりするような表現活動を多くし、追究を深めていくようにしています。子どもたちが、授業の中で小さな成功体験を積み重ねていくことで、学習に楽しさを感じ、学力の向上にもつながっています。

〈子どもたちから出されたいろいろなやり方〉



### (4) 自尊感情を育み、支え合える学級集団をつくる

本年度の全国学力・学習状況調査の結果をみると、S小学校の子どもは自尊感情が高いことが特徴としてあげられます。一人ひとりの子が「自分は大切にされている」「自分はいいところがある」という気持ちが根底にあることで、意欲的に学習に向かい学力も向上していったと思われま。教頭先生が「子どもたちは担任の先生が大好きなんですよ」と誇らしげに語ってくれたことも頷けることです。

## 6 今後の取組み

S小学校は、教師が子ども一人ひとりの良さを認め、支え合える集団をつくり、全職員が学校の重点に沿って指導方法を改善していくP D C Aのサイクルの中で、学力が向上してきたと考えられます。この実践に学びながら「一人ひとりの育ちに、ていねいに向き合う教育」を基本理念とし、市内の小中学校において、次のことを大切に取組みたいと考えています。

### (1) 教員の指導力向上と授業改善

ア 授業のはじめに「目標（めあて・ねらい）を示す」活動や、授業の終わりに「学習を振り返る」活動を位置づけるなど、学力向上に効果的であった指導法を継続し、どの教室でも確かな学力が身につく授業が展開されるよう一層努めてまいります。

イ 活用力の向上を図るために、ここ数年間、日常生活に関係付けた学習問題を設定したり、資料を用いて説明したりする学習活動を重視してきました。本年度の調査結果を見ると、一定の成果が表れてきていると考えられますが、今後も教科学習の中で、基礎・基本の定着を図るとともに、「自分たちで課題を立て、その解決に向けて情報を集め、学級やグループで話し合いながらまとめ、発表する、記述する」などの主体的、対話的な学習活動を一層充実させてまいります。

### (2) 塩尻市の重点施策を活かした生活の基盤づくり

塩尻市が推進している「早ね 早おき 朝ごはん・どくしょ」の市民運動に基づく様々な取組が、小中学生の規則正しい生活や読書時間の割合の高さとなって表れ、教科学習の土台を支えていると考えられます。今後も子どもたちが、家族の一員として家庭での役割を果たしたり、遊びやゲーム、読書、家庭学習等の時間をバランスよく配分したりする、自立的な生活づくりが進むよう保護者と協力して家庭生活を充実させてまいります。

### (3) 元気っ子応援事業を核とした個に応じた支援

個に応じた育ちを応援していく「元気っ子応援事業」とともに歩んできた子どもたちが昨年度中学校を卒業しました。学校質問紙では、市内全小中学校が「調査対象学年の児童生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いている」と回答しています。また、児童生徒質問紙では、「先生はよいところを認めてくれる」という回答が、小中ともに全国平均を大きく超えており、子どもたちの個性や特性が集団の中で大切にされていると考えられます。これからも、自尊感情を育み、個々が持っている力がさらに伸びるよう「元気っ子応援事業」を推進します。また、担任と市単独加配講師との連携によるティームティーチングや少人数学習、個別学習などの指導についても、改善を図りながら継続してまいります。

### (4) コミュニティー・スクールを生かした体験的・課題解決的な学習の充実

学校運営協議会が動き始めている現在、学校支援ボランティアによる学習支援も増えてきています。学校支援コーディネーターとの連携を密にし、地域の力を借りながら、子どもたちが自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら解決する力を身につけるため、「体験的、課題解決的な学習活動」を推進してまいります。また各校で取り組む「特色ある教育活動」についても実のあるものにしていきます。

### (5) 小中一貫した指導内容・方法の研究

新学習指導要領では、英語が教科として小学校に位置づきます。英語に限らず、小学校と中学校で指導の隙間を生み出さないよう、中学校区毎に教育目標を共有しながら、9年間の系統的な指導内容・方法について検討し、一貫性のある教育の推進に努めてまいります。